

文献紹介 **マイクロクレジットの危機回避**  
**バングラデシュのケース**

CGAP Focus Note, “*Microcredit Crisis Averted: The Case of Bangladesh*”

社会デザイン学会  
ファイナンシャル・インクルージョン研究会  
2015年9月15日  
八木正典

## 対象文献

- 文献名「CGAPフォーカスノート：マイクロクレジットの危機回避：バングラデシュのケース」
- 著者：グレッグ・チェン、スチュアート・ラザフォード  
(CGAPフォーカス・ノートNo 87、2013年7月、20頁)
- Greg Chen, Stuart Rutherford, “*Microcredit Crisis Averted: The Case of Bangladesh,*” July 2013, CGAP Focus Note No.87
- <http://www.cgap.org/sites/default/files/Focus-Note-A-Microcredit-Crisis-Averted-July-2013.pdf>

## Focus Note No 87の構成

- 第1章: バングラデシュにおける最新のMF運用状況
- 第2章: 2002年から2007年までなぜMFは急成長したのか。
- 第3章: MFIは、顕在化してきた危機を感じ取り、2008年から10年にかけて如何に対応したのか。
- 第4章: MFIとその顧客が回避した危機の態様
- 第5章: 如何に危機が回避されたかについてのまとめ
- 第6章: 2008年から10年にかけての変化をうけてバングラデシュのMFに生じた5つのトレンド

## 本文献のポイント: バングラデシュの4大MFIの動向

- バングラデシュの4大MFIであるASA、BRAC、BURO、GRAMEEN Bankは過去10年間のバングラデシュにおけるマイクロファイナンス融資額の2/3を供給してきたが、その事務所数、スタッフ数の拡大基調は、各機関による対外発表もなしで、2008年にブレーキがかかり大きな転機を迎えた。
- 以後4大MFIの顧客(借入者)数の増加も止まり、以後緩やかな減少傾向にある。
- 一方で、マイクロクレジットの融資残高は、2007年から2008年に一時停滞したが、2011~2012年に再び増加し始めた。小規模企業融資(SEL)の融資残高に占める割合は、2003年の10%から2012年には30%に増加した。このことは、バングラデシュにおけるマイクロクレジットの規模や対象に実質的な変化が生じていることを示している。

## バングラデシュにおけるMFを取り巻く状況の変化 2-1

- 2006年にマイクロクレジット規制法が成立し、翌年からMFIの免許制が導入された(グラミン銀行は対象外)。2007年末から2008年末にかけて、マイクロクレジットの規制当局であるMRA(the Microcredit Regulatory Authority)は**400近いMFIに免許を付与**し、その後も、200以上に免許を付与し、現在も600以上のMFIが免許を有している。業界団体CDF(the Credit and Development Forum)は、2008年612のMFIからデータを収集し、借入者はのべ2400万人に達する。うち、複数の貸付を勘案し、**実借入者数は1500万世帯1700万人**と推定。すなわち、バングラデシュ**約3300万世帯のうち、約半数がMFIの貸付を享受**。
- バングラデシュのMFIは、2002年から2007年まで急速に規模を拡大。実行借入者数は年15~28%の割合で急増。
- 債務に対する担保なしの伝統的グループ連帯責任システムが世界で最初にグラミン銀行によって導入された国であるが、現在は、集会が定期的に行われている例はあるにしても、**グループ債務連帯責任制度はほぼ消滅**(グラミン銀行も2002年にグラミンIIを開始し、抜本的な制度改革を行った)。
- 2011年に、**貸出金利の上限を27%とする規制法**が成立。

## バングラデシュにおけるMFを取り巻く状況の変化 2-2

- バングラデシュでは、1970年代にマイクロクレジットが導入され、**各世帯では3世代にわたって、MFの恩恵**を受けてきた人々が多く、その仕組みにもなじみがあり、融資に対する基本的理解が存在する。これが無理な融資を抑止する側面がある。
- バングラデシュ経済は発展を続けており、海外出稼ぎ労働者の送金収入、安価な労賃に注目した海外資本による縫製工場等の建設による雇用の創出により、国民のひとりあたり所得は着実に増加。
- MFIが提供するサービスとしては、依然マイクロクレジットが中心にあるものの、**預金や保険への関心**が高まっている。**小規模企業融資(SEL)**も拡大。また、海外から国内への送金サービスもニーズが存在する。モバイル・バンキングについては、商業銀行と競合する側面がある。
- 一方で、マイクロクレジットが最貧困層である底辺20%の人々に届かないとの反省から、生計向上プログラムが開発され、中でも、BRACが導入した**最貧層対策アプローチ (Targeting the Ultra Poor: TUP)** (注)は、CGAP/フォード財団により、他の8か国、10サイトで試行されている。

(注)BRACの最貧困対策プログラムは、イアン・スマイリー著、笠原清監訳、立木勝訳『貧困からの自由』2010年明石書店、第15章「フロンティアへの挑戦」において、「貧困削減のフロンティアへの挑戦 (Challenging the Frontiers of Poverty Reduction:CFPR)」が詳しい。

# バングラデシュ4大MFIの概要

- ASA: 1978年にシャフィーク・アルハック・チョウドリー (Shafiqul Haque Choudhury) によって、貧困者の社会的政治的エンパワーを目指して創設。1991年には、世界で最も効率的なMFIへの途を歩み始めた。ASAは、2006年に海外展開を開始し、8か国への進出を果たした。ASAは、2007年Forbes誌で、世界No1のMFIとして紹介された。
- BRAC: 世界で最も規模の大きなNGOのひとつ。1972年に貧困との闘いを使命として、ファーズ・ハサン・アベド (Faez Hassan Abed) が1990年に創設。2001年にアフガニスタンを皮切りに海外展開を開始し、2013年までに10か国に進出した。2013年には、グローバル・ジャーナルによって世界で最も影響力のあるNGOと紹介された。
- BURO: 1991年に、バングラデシュ解放戦争に加わったザキール・ホセイン (Zakir Hossain) が創設。1地方Tangailから全国展開を開始し、顧客100万人を達成した。革新的で柔軟な貯蓄サービスに特徴がある。
- GRAMEEN Bank: 1976年にムハンマド・ユヌス (Muhammad Yunus) によって創設。グラミン銀行は、1983年に貧困者を支援するための特別銀行となった。グループ集会・連帯責任で知られるマイクロクレジット・システムの生みの親。しかし、2002年に抜本的な制度改革を実施し、連帯責任制に寄らないグラミンIIを開始。ユヌス博士は、2006年にノーベル経済学賞を受賞。しかし、2010年ごろから政府と対立し、2011年には、グラミン銀行総裁の地位を失った。





# 4大MFIの事務所数の推移

(観察1) 事務所数は、2009年をピークに漸減

Figure 1. Staff and branch numbers, big four MFIs

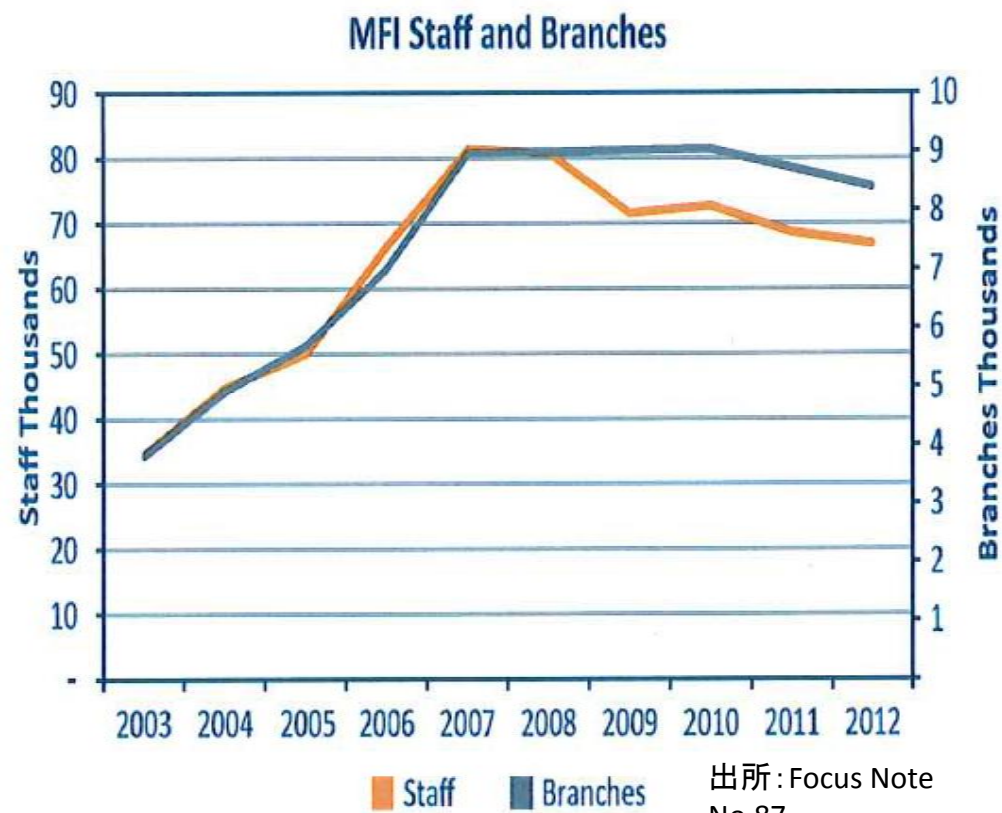
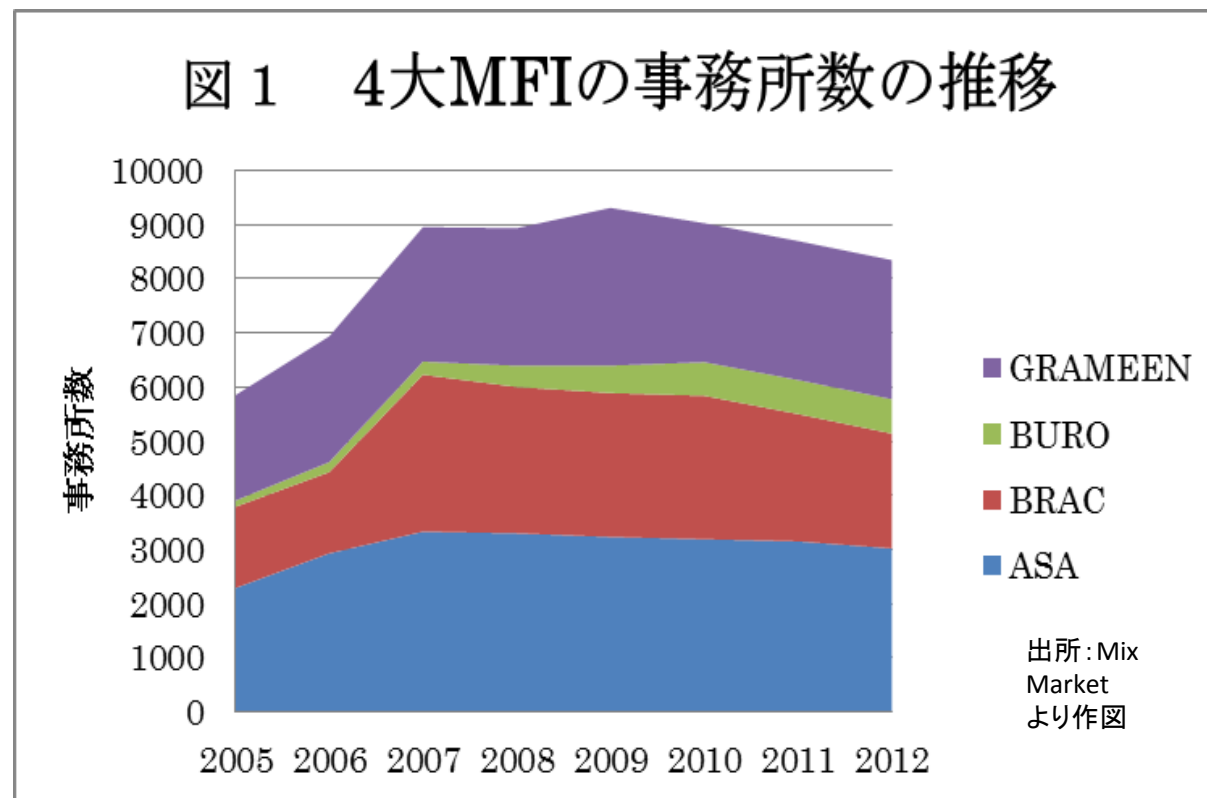


図1 4大MFIの事務所数の推移





# 4大MFIの従業員数の推移

(観察2) 従業員総数は、2007年をピークに減少。特に、BRACの減少が目立つ

Figure 1. Staff and branch numbers, big four MFIs

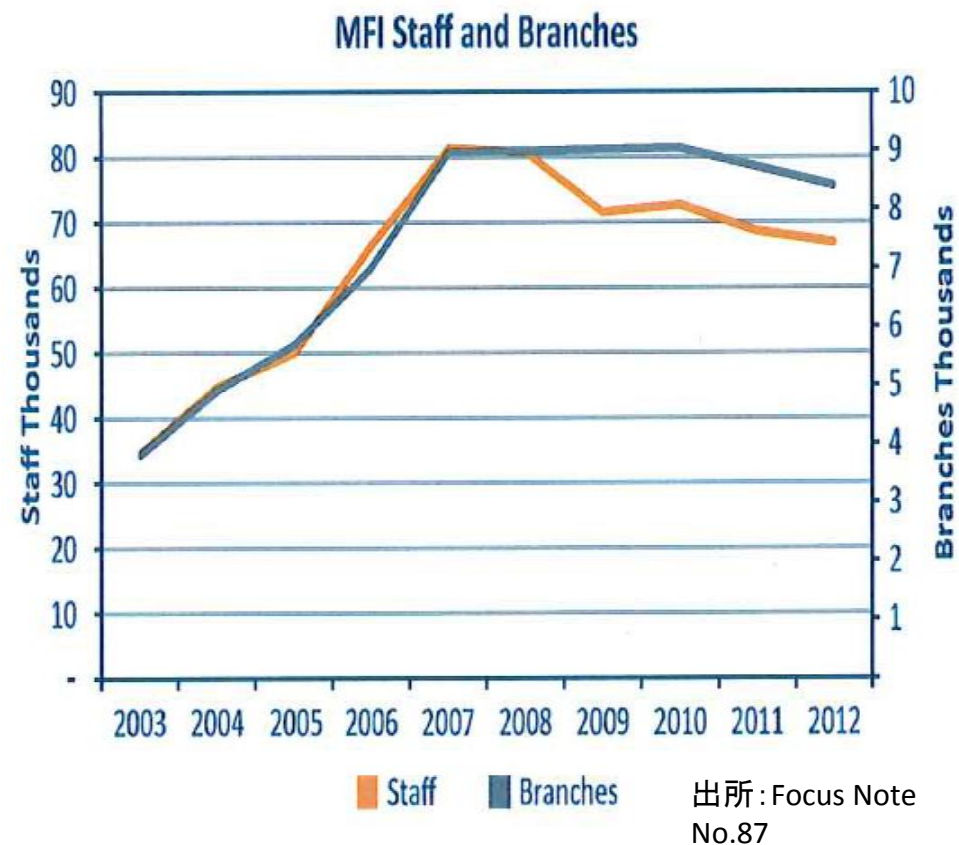
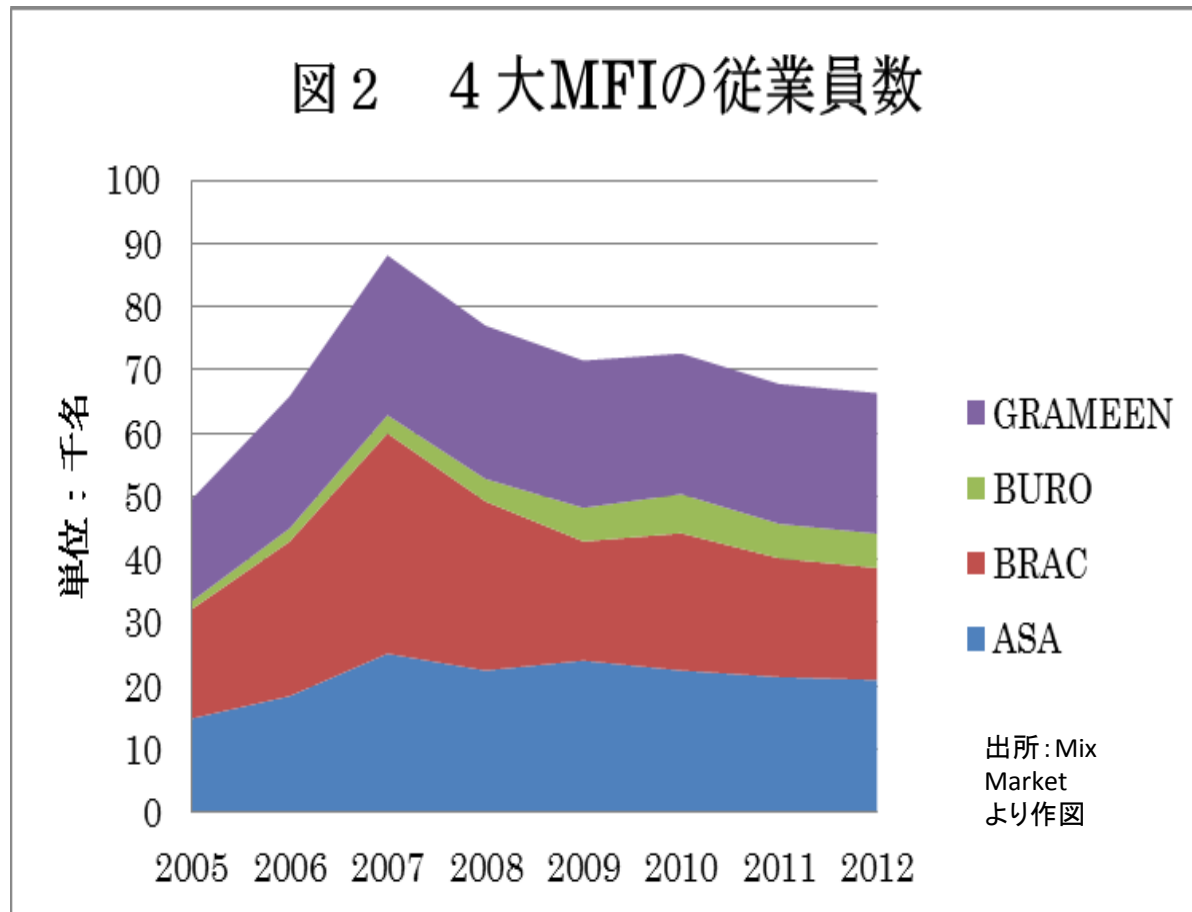


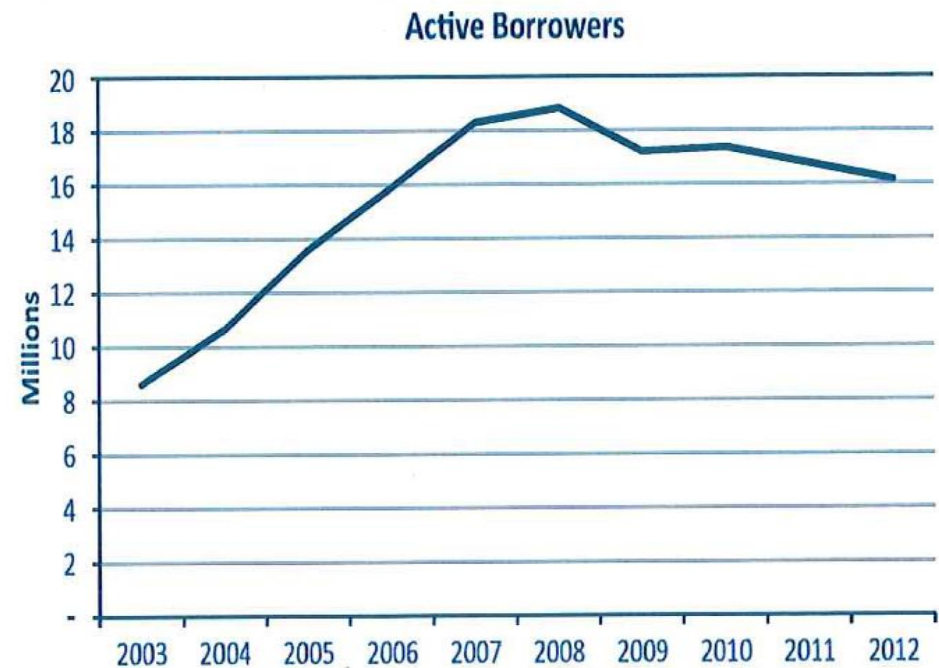
図2 4大MFIの従業員数



# 4大MFIのマイクロクレジット借入者数の推移

(観察3) 借入者(実行中)総数は、2008年をピークに減少。特にASAの減少が目立ったが、その後安定

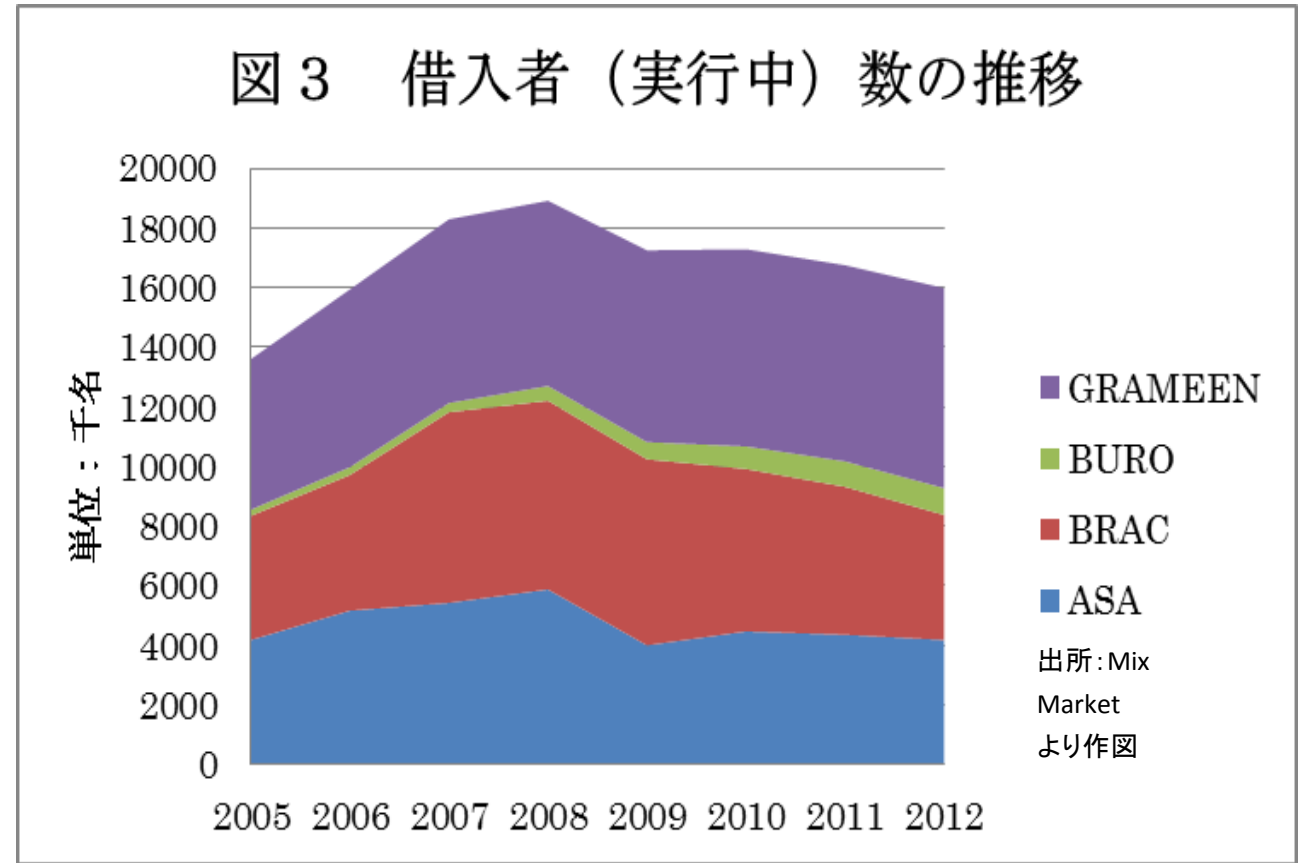
Figure 2. Active borrowers, big four MFIs



(Note: Aggregates borrower figures from all four MFIs and therefore double- or multiply-counts borrowers with loans from more than one MFI. Estimates indicate that borrowers with loans from more than one MFI are just over 30 percent nationally.)

出所: Focus Note No.87

図3 借入者(実行中)数の推移

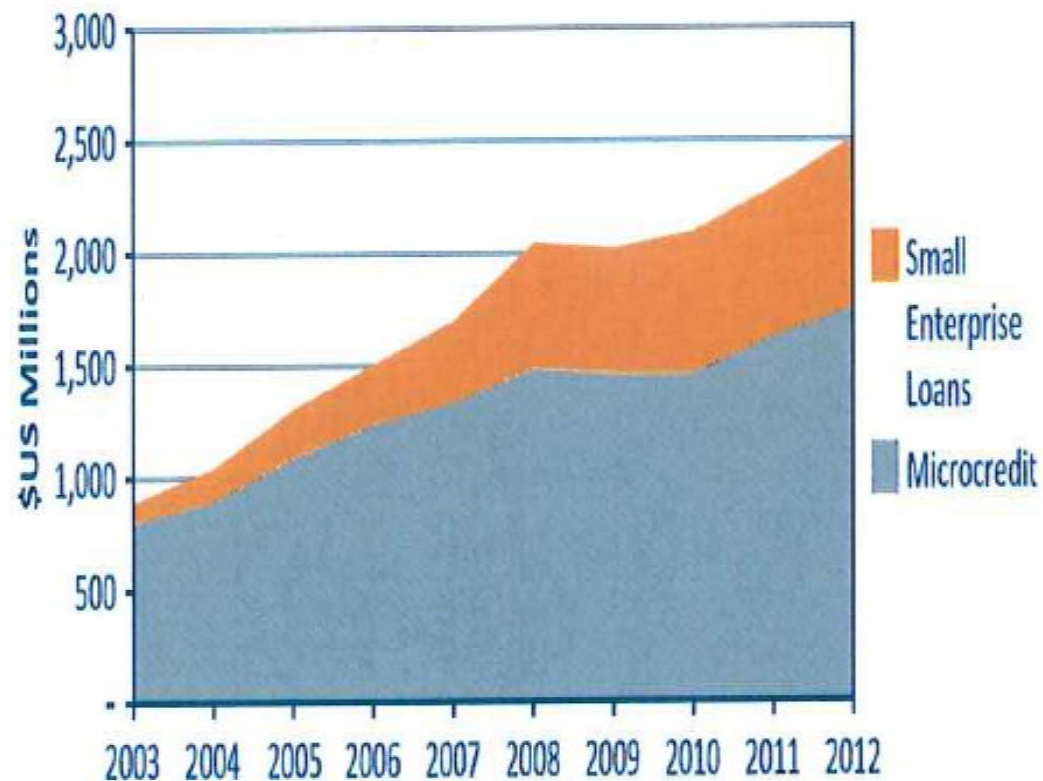


出所: Mix Market  
より作図

# 4大MFIの融資残高の推移

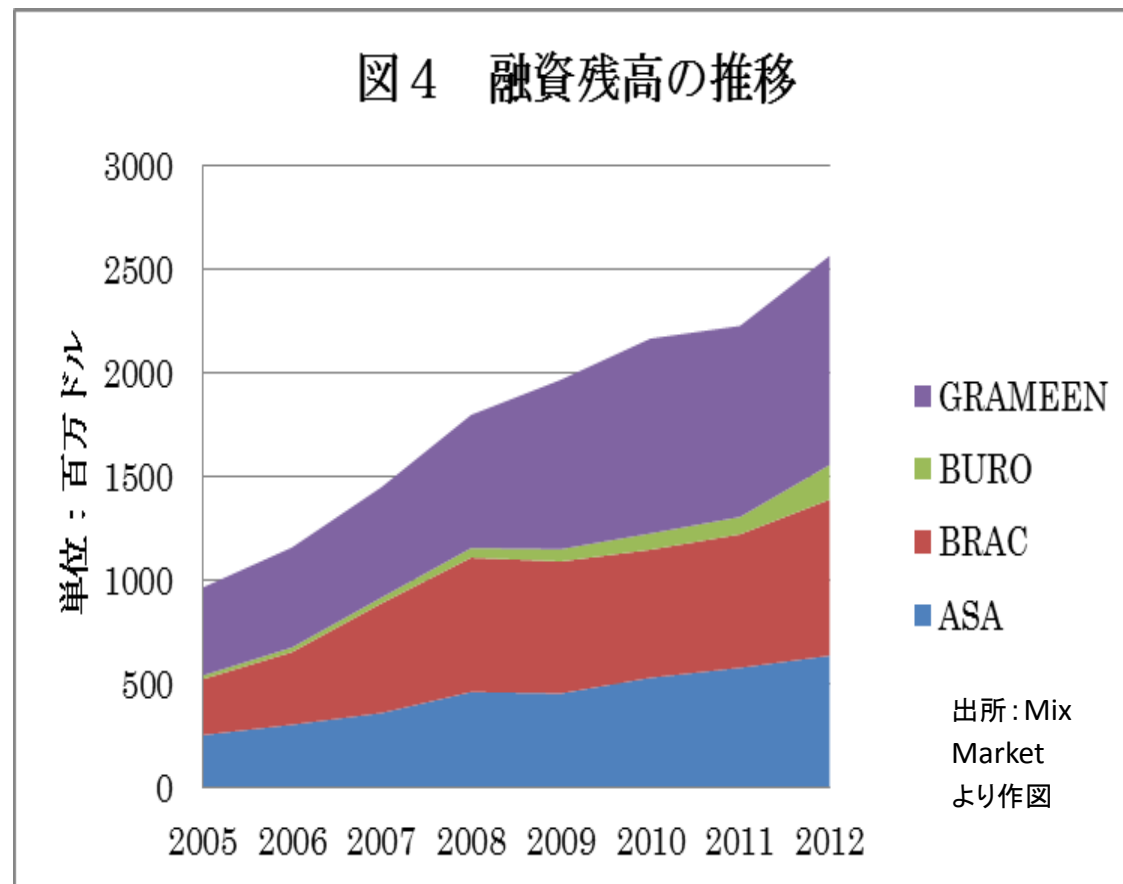
(観察4) 借入者数の減少にもかかわらず、融資残高が増加しているということは、1件あたりの金額が増加していることを示している。

Figure 3. Gross loan portfolio, big four MFIs (constant 2012 \$US)



出所: Focus Note No.87

図4 融資残高の推移

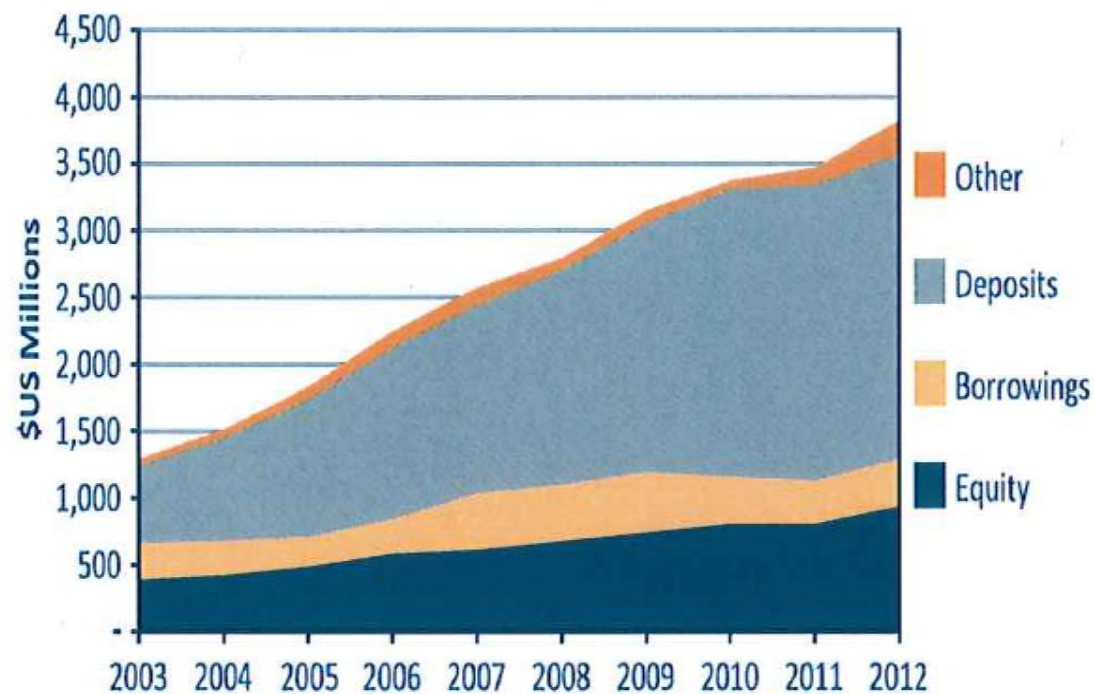


出所: Mix Market  
より作図

# 4大MFIのファンドの構成比と貸付に対する貯蓄の比率の推移

(観察5) 貸付原資としての貯蓄の割合が大幅に増加。但し、グラミンが飛びぬけている

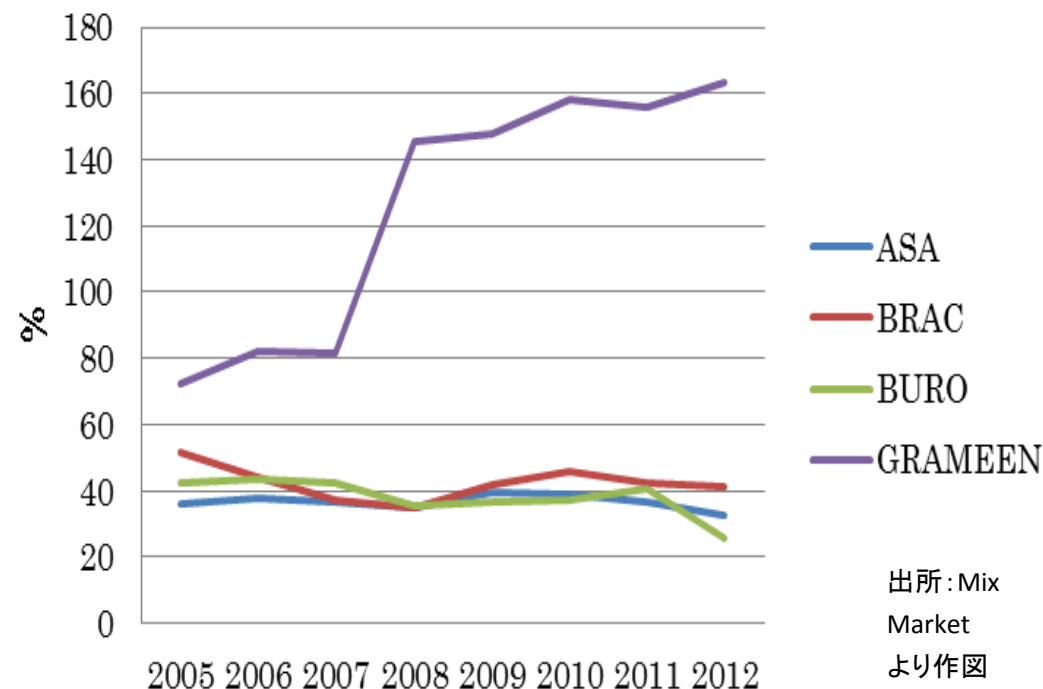
Figure 4. Sources of funding, all four MFIs (constant 2012 \$US)



Note: PKSF's loans to MFIs amounted to about \$400 million in 2011, PKSF Annual Report 2011.

出所: Focus Note No.87

図5 貸付に対する貯蓄の比率

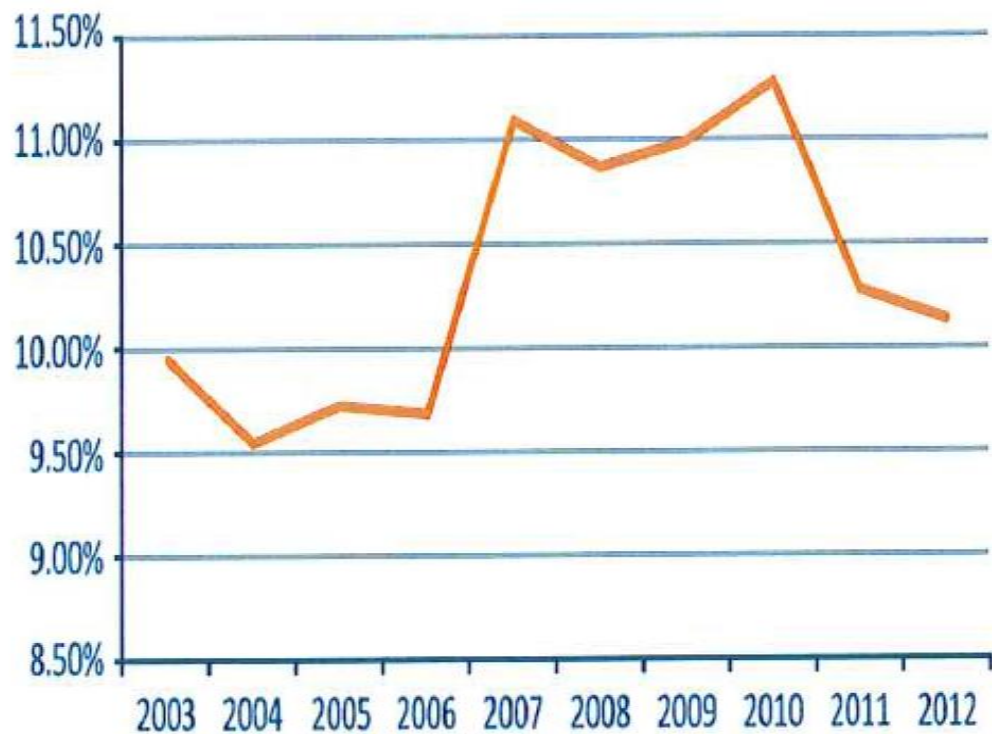


出所: Mix Market  
より作図

# 4大MFIの融資残高に対する運営経費の割合

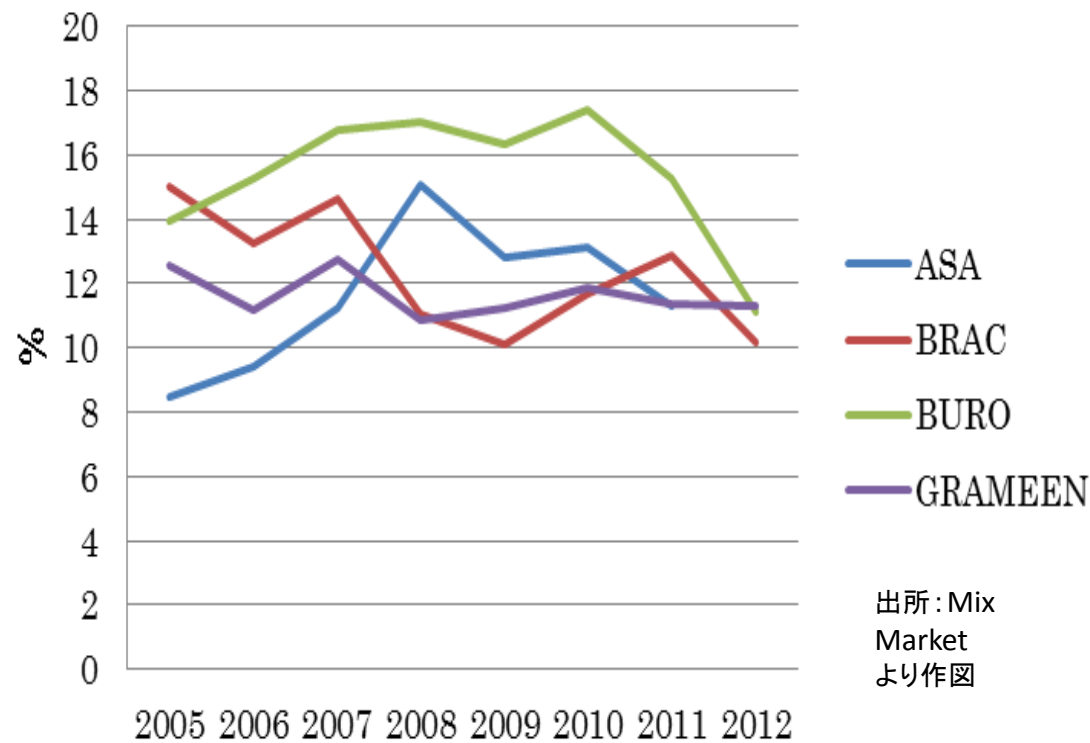
(観察6) 2006年から2007年に運営経費の割合が急増したことが、事務所・従業員数の減少につながった

Figure 5. Operating expenses as % of gross loan portfolio, all four MFIs



出所: Focus Note  
No.87

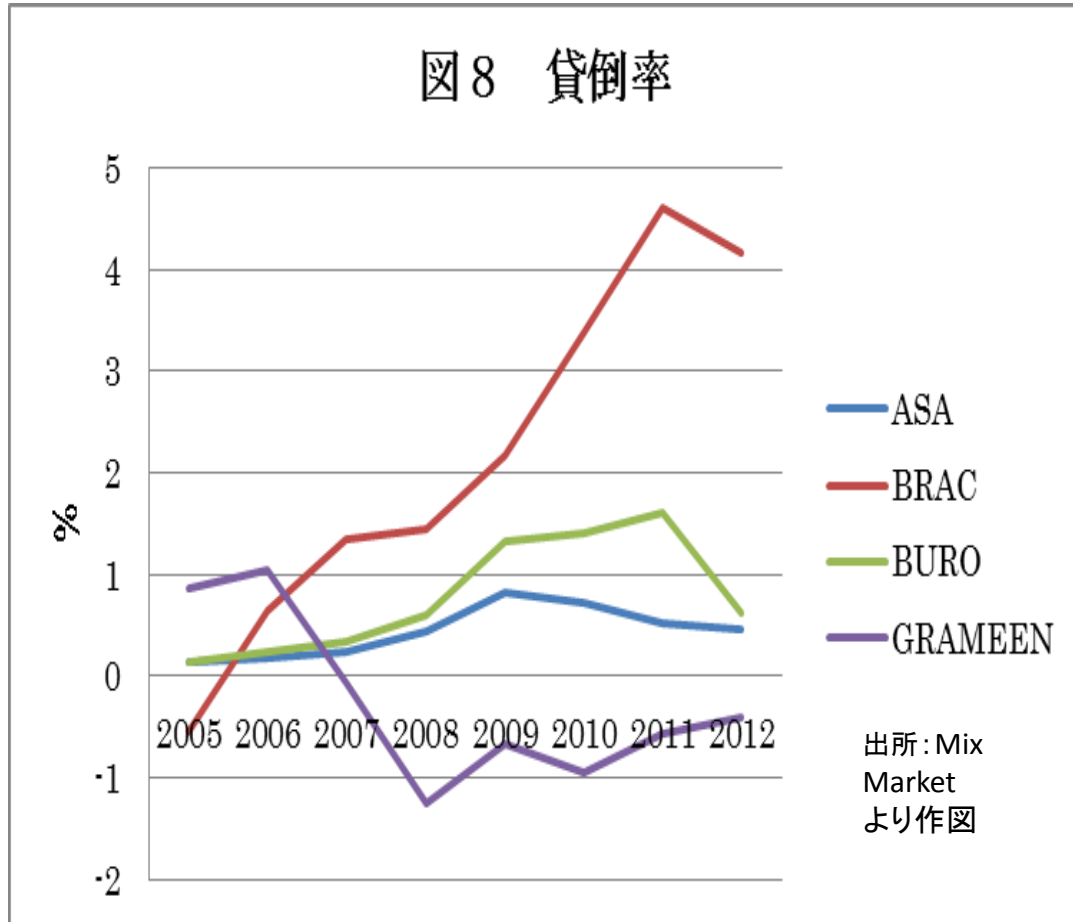
図6 融資残高に対する運営経費の割合



出所: Mix  
Market  
より作図



## 4大MFI貸倒率 (Loan Loss Ratio)の推移



- $LLR = \frac{\text{Write off} - \text{VoLR}}{\text{AGLP}}$

LLR: Loan Loss Ratio

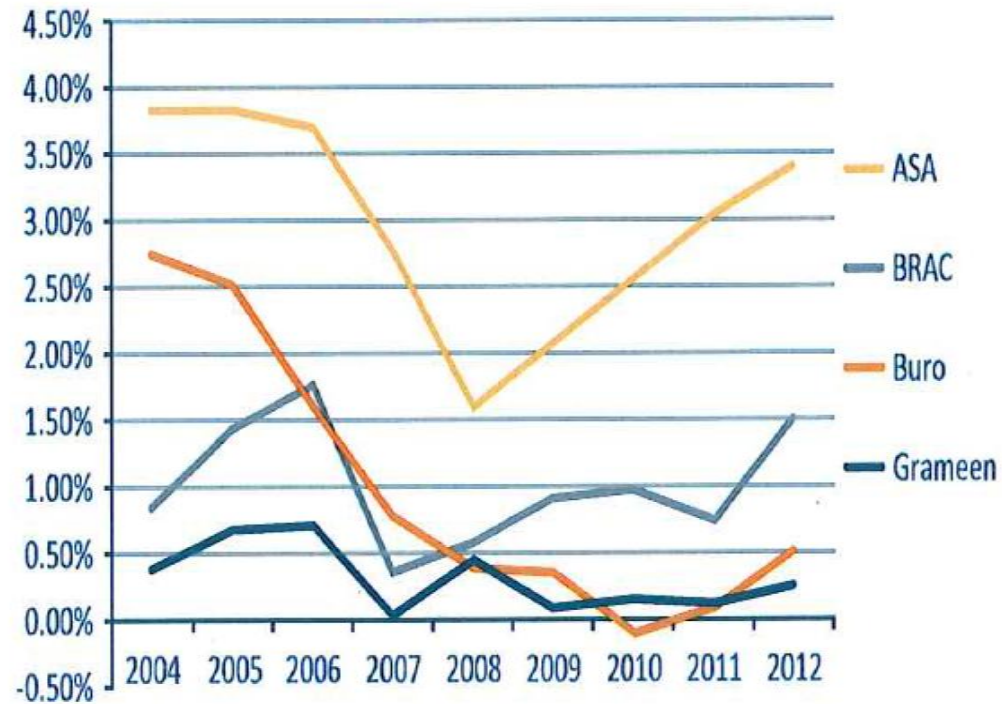
VoLR: Value of Loans Recovered

AGLP: Average Gross Loan portfolio

# 4大MFIの総資産に対する収益率の推移

(観察7) 2006年から2007/2008年にかけていずれも収益率が悪化したが、ASAの回復は目覚ましい

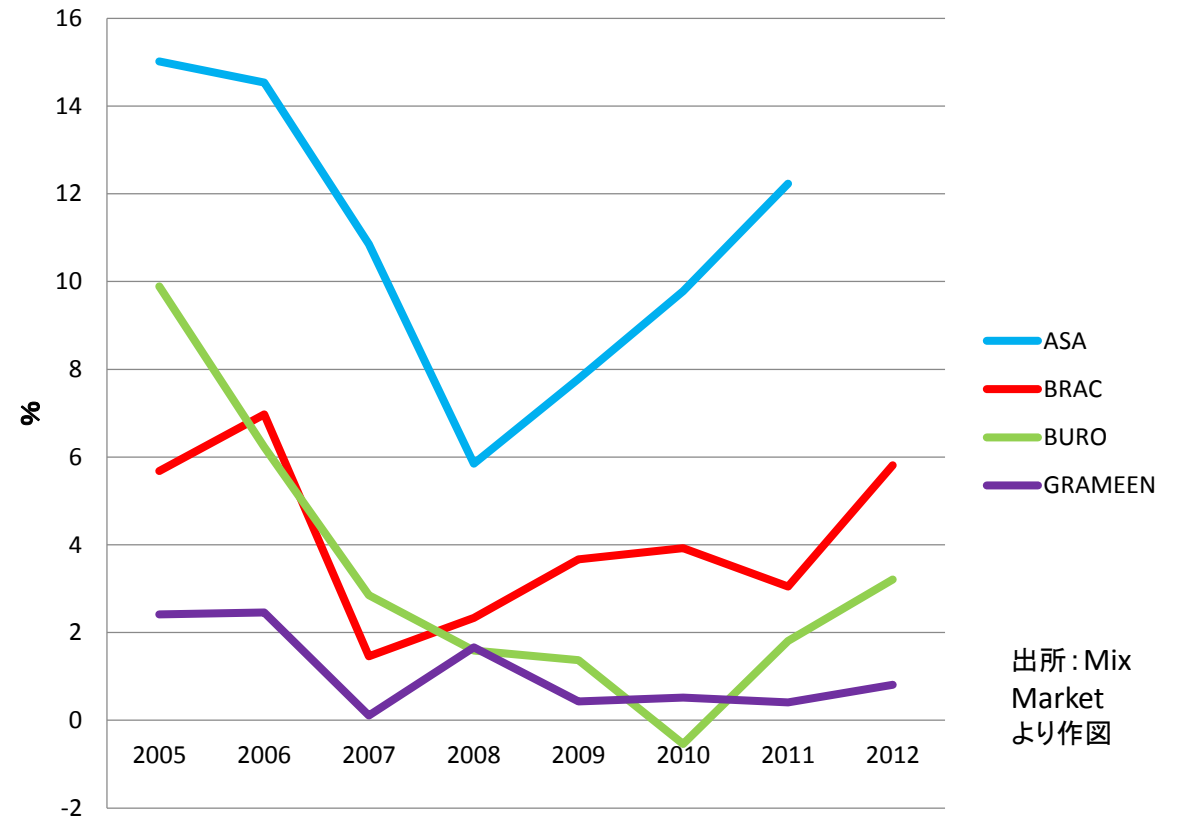
Figure 6. Return on Assets, big four MFIs



Note: Grameen Bank's loan interest rate has long been the lowest of the big four

出所: Focus Note No.87

図7 総資産に対する収益率



出所: Mix Market より作図



**Table 1. Largest Four MFIs and the Microfinance Market (2012)**

	ASA	BRAC <sup>a</sup>	BURO	GRAMEEN	4 MFIs as % of All MFIs <sup>b</sup>
Loan Portfolio (\$US Millions)	636	750	110	997	65
Savings Deposits (\$US Millions)	262	311	42	1,628	86
Branches	3,025	2,120	625	2,567	49
Active Borrowers (Millions)	4.2	4.4	1.0	6.7	72
Microfinance Staff	20,969	17,700	5,447	22,621	53
Year of Launch of Microcredit	1991	1974	1991	1976	—

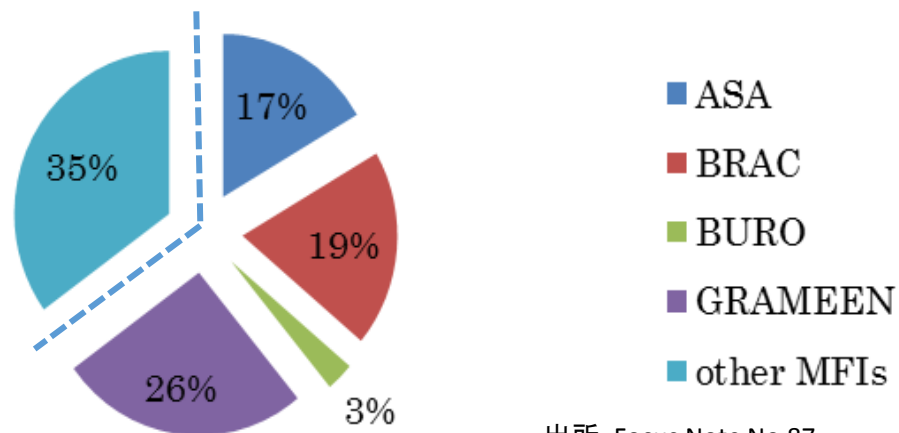
a. BRAC's figures include only full-time microfinance staff, though shared services staff (e.g., accounting and finance) would increase the full-time equivalent head count.

b. Percentages based on large four MFI figures for 2011 as a proportion of industry totals from Bangladesh Microfinance Statistics, 2011, Credit and Development Forum & Institute of Microfinance

出所: Focus Note No.87

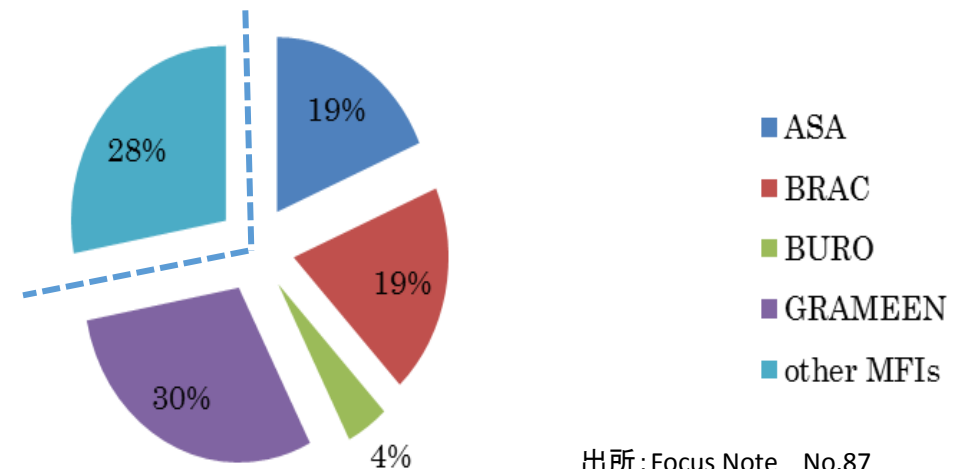
# 4大MFIの融資残高と借入者数の全MFIに対する割合

図9 4大MFIの融資残高比率  
(4大MFIで全体の65%)



出所: Focus Note No.87  
Table 1より作図

図10 4大MFIの借入者比率  
(4大MFIで全体の72%)

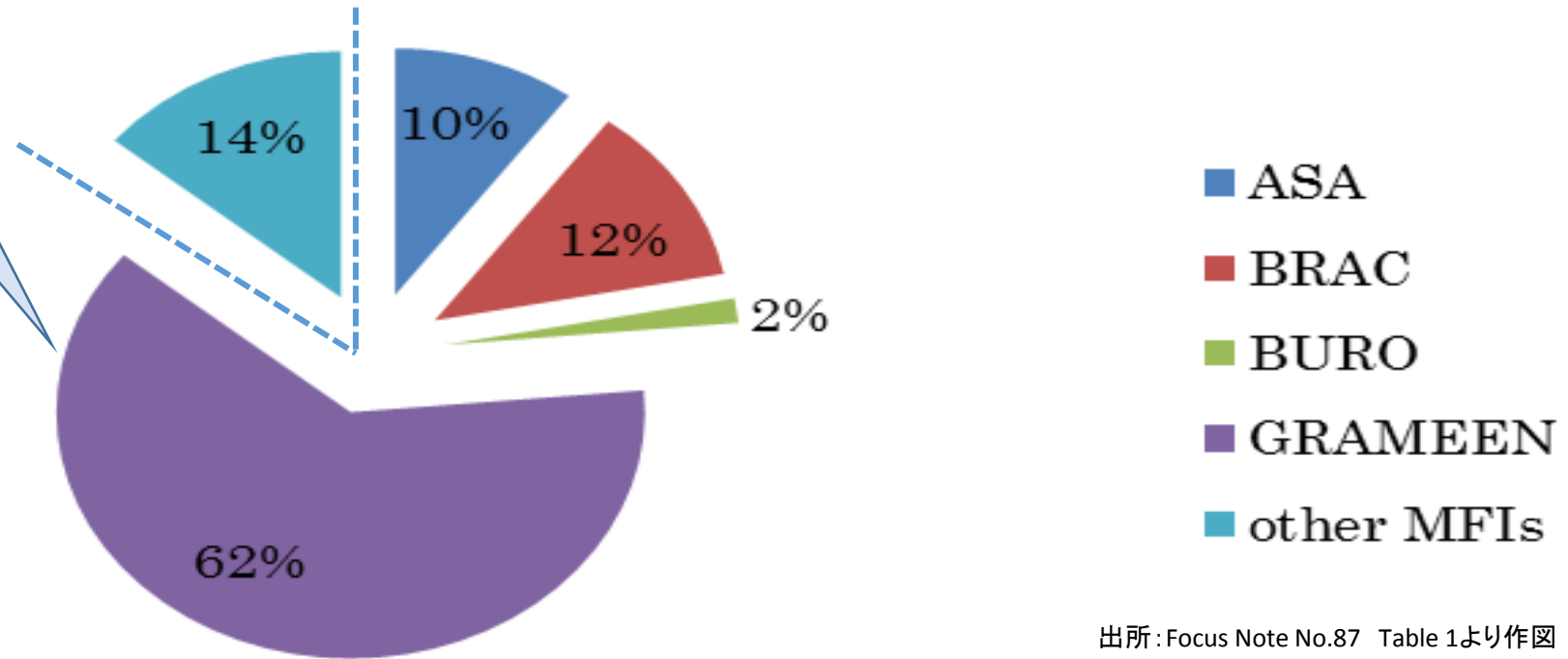


出所: Focus Note No.87  
Table 1より作図

# 4大MFIの貯蓄額の全体との比率

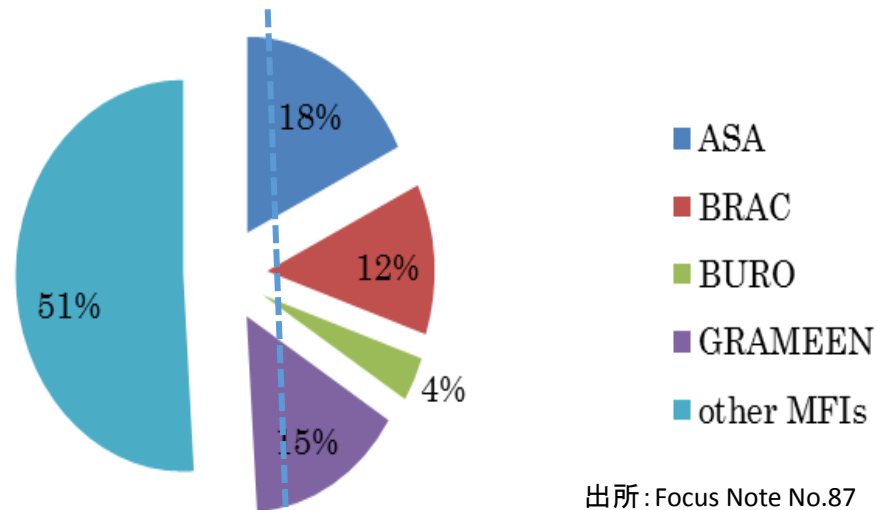
図11 4大MFIの貯蓄額比率  
(4大MFIで全体の86%)

(観察)グラミン銀行のシェアが圧倒的に高い



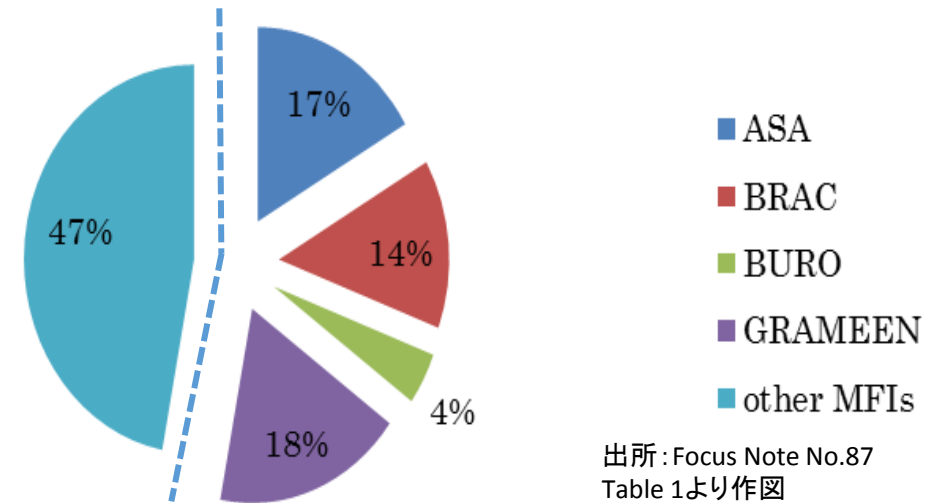
## 4大MFIの支店数/従業員数の割合

図12 4大MFIの支店数  
(4大MFIで49%)



出所: Focus Note No.87  
Table 1より作図

図13 4大MFIの従業員数  
(4大MFIで全体の53%)



出所: Focus Note No.87  
Table 1より作図

## MFIの経営危機への対応(その1)

- 2006年以後目立ってきたMFIの経営危機に際して、主要MFI間で対応策がまとまらなかったため、ASAは、2007年央から一方的に事務所や従業員数の拡大を抑制し始めた(ASAの事務所数は、07年の3,334から12年の3,015に減少)。地方から全国展開を行っていたBUROを除いて、時期をずらしてBRACやグラミン銀行も追随(BRACは、2008年の2900事務所をピークに、2012年には2200如何に事務所数を削減。グラミン銀行も2008年末から事務所開設を抑制し始め、以後事務所数は同じ水準で推移している)し、BUROも2010年以降抑制に転じた。

(参考)事務所数の急増:MFIの免許申請前の駆け込み需要

2007年にマイクロクレジット規制当局(MRA)が活動を開始した際、MFIが新たな支店を設ける場合は、MRAの許可を必要とする提案を行った。同提案は、実現しなかったものの、免許を取得する前に、多くのMFIが事務所開設を急いだ。たとえば、BRACは、2007年11月に免許を得る前に同年後半だけで、1500から2900に事務所を増加させた。中小規模のNGOも事務所開設に踏み切るところが多かった。

## MFの経営危機への対応(その2)

- 4MFとも、融資総額を抑制し始め、また、貯蓄がデフォルトの緩衝材になるとの考えから**貯蓄の獲得を従業員に働きかけた**。各MFは貸し倒れ引当準備金の増額に取り組んだ。
- 他国で見舞われたような危機を回避できた理由として、いくつかのポイントがあげられる
  - ①危機に直面しての経営者の経験と先見性:ほとんどのMF経営者は、創設時からさまざまな問題を乗り越えてきており、それぞれがマイクロクレジット・サービスにおいて高い評価を獲得し、また、その未来の可能性が業界の健全性に依存するとの信念を有している。また、彼らはこの分野に人生の多くを捧げてきている。
  - ②バングラデシュにおいては、MF顧客の多くは、**3世代にわたってマイクロクレジットのルールと責務を熟知**しており、不要な融資を避ける思慮深さが備わっている。
  - ③**貯蓄は**、2003年から2007年にかけて急速に拡大したが、危機に際しても顧客とMF双方にとって**危機回避の緩衝材として機能**した。
  - ④バングラデシュにおいては、独立直後の飢饉から人々を救済するために開始されたという経緯も踏まえ、MFは基本的に人々を貧困から引き上げるために存在するとの考えが広く共有されている。バングラデシュのMFも純粋に社会的要素に基づくわけではなく、利益の確保は正当化されるが、他国との違いのひとつは、**非営利的要素**である。ASA総裁は、**商業目的の投資は、問題への解決を遅らせ、事態を悪化させた**であろうと述べている。

# 今後の方向性(その1)

(1) **マイクロクレジットの変革**：融資規模 (loan size) が拡大している。特に2011年から12年にかけて急増したが、これは、規制当局MRAが27%の金利上限を設定したことが影響している。BRACはもはや\$125/件以下のローンは提供しないこととしている。BRACのAbet総裁は、**小規模融資を必要とする貧困層を如何に手当していくかが課題**であると述べている。他にも、たとえば、グラミン銀行やBRACが採用したリスケジューリング等に利用できる追加融資 (Top-up loans) やグラミン銀行の青年起業家融資が試みられている。BRACは、返済期限を週単位から月単位に移行する試みも実施している。

(2) **小規模企業への貸付は市場の重要な部分を構成**：2007年からの特徴的な変化は小規模企業融資 (SEL) が拡大してきたことである。BRACは、通常融資とSELを区別しており、SELには特別の要員と訓練を実施している。他の3つのMFIIは、切り離していないものの、SELはMFの運営において重要な位置を占め、成長している

。



## 今後の方向性(その2)

**(3)顧客のニーズに対応した貯蓄サービスの拡大:** 貧困層にとって、公式部門の貯蓄サービスが充実していないため、非公式のツールを活用せざるをえない状況にあったが、経済成長とともに、人々の未来志向は強まり、そのために預金や保険への関心が高まっている。借入の義務のない預金への関心が高まっており、MFIも引きおろし自由の預金通帳と強制預金を併用しているところが誕生している。グラミン銀行は、2002年に開始されたグラミンIIで5年、10年の長期間の定期積立貯金商品を提供し、高利回りで顧客の関心を引き付けた。但し、グラミン銀行以外のMFI/NGOが貯蓄をより拡大するには、借入の義務のない預金を促進するMRAの規制緩和が必要であるとみられている。

## 今後の方向性(その3)

**(4) 預金取得型MFI制度創設に向けてのモメンタム**:新たに預金取得型のMFIの制度を設けて、5-10のMFIに免許を付与し、預金の拡大を目指すことが議論されている。バングラデシュ中央銀行総裁も、2013年4月段階で、MFI銀行創設に向けて検討を開始すべきであると述べた。

**(5) モバイル・バンキングの活用**:携帯電話支払サービスは急速に発展している:オランダ・バングラ銀行やBRAC銀行子会社のbKashにより2013年4月までに、8万代理店とアカウント数500万に達している。この活用によって、新たな展開がもたらされる可能性がある。

# 世帯対面調査概要(その1)

- 顧客側の見方を聴取するために43世帯がインタビューされた。
- マイクロクレジットの危機回避は、顧客側の43世帯を対象に実施された対面調査から、①多くの世帯が過去の経験に学び、MFIの活用に注意深くなっていること、②貯蓄サービスに対してより強い需要が生じていること、③MFIからの借入れは、ストレスを生じさせている(例えば2人の債務取立人が午後または夕方突然現れ、なにがしかの返済がなされるまで立ち去ろうとしない等)ことが判明した。
- (対面調査の対象数は小さく、得られたデータは、バングラデシュの農村部を一般的に代表しているとは言えないものの、調査結果は近年のMFに対する特徴をよく表している。www.cgap.org/publications/household-interviews-bangladeshu-2013)
- 時期:2013年第一四半期
- 出身地:25世帯が、商業的に活発でマイクロクレジットの競争が激しい中部からで、残り18世帯がMFIの競争ならびに経済活動も穏やかである南西部。
- 対象村落:ランダムに選択された。原則各村落で1世帯。
- 対象世帯:裕福な世帯は除外された。
- 調査実施者:村落住民に対しては、村落の生活に関する研究者と伝え、MFについては、対面調査が進行するまで明らかにされなかった。
- 対面調査の実施対象:原則1村落で1世帯のみ対面調査が実施され、例外は2件にとどまった。
- 世帯のサイズ:5.4人

## 世帯対面調査概要(その2)

- 大人の教育: 平均3.8年の学校教育
- 15歳以下の学齢年齢の子どもは、学校に入学している。
- 世帯主のうち9名は女性。うち6名が未亡人で、3名が離婚されたもの。
- 対面調査対象者は、イスラム教徒とヒンズー教徒のみ。
- 各世帯は、平均で2名弱が収入を得ている。
- 稼ぎ手の仕事は、日々の労働者、小店舗・事業者、農業・家畜飼育、リキシャ等。
- ほとんどの世帯が一つ以上の収入源を有している。中には季節的やたまたま収入を得るものが含まれる。
- 24世帯(58%)が中クラスと回答。16世帯(37%)が貧困と回答。さらに3世帯(7%)が極貧と回答。
- 13世帯は土地なしであると回答。30世帯は土地所有。但し、耕作地所有は、9世帯のみ。
- 10世帯が、家族の誰かの海外または主要都市からの送金を得ている。

## 【世帯調査結果概要】

- 43世帯のうち、2世帯のみがMFIの顧客になった経験がなかった。
- 36世帯がMFIの顧客であり、うち27世帯が借入中であり、融資アカウントは合計で51に達した。16が複数のMFIから借入中で、また、43すべてが望めばいつでも借入できる状況にあった。
- 実行中のMF融資の数
  - ・1つのMFIからの融資： 11世帯(23%)
  - ・2つのMFIからの融資： 11世帯(23%)
  - ・3つ以上のMFIからの融資：5世帯(7%)
- 3世帯が公式銀行から借り入れ。5世帯が保険に加入。15世帯が、私的なMFIでないソースから利子付きの融資を得ている。MFIの融資と私的な融資は、たとえば、MFIの返済に充てる等相互に関連性を有している。
- ほとんどの融資や返済はキャッシュであるが、質草やものによる場合もある。
- 36世帯(84%)がMFIに平均160ドルの貯蓄を有すると回答。また、3世帯が500ドル以上と答え、さらに1世帯が1,000ドル以上であった。

終わり



対象文献: Greg Chen, Stuart Rutherford, “*Microcredit Crisis Averted: The Case of Bangladesh*,” July 2013, CGAP Focus Note No.87

<http://www.cgap.org/sites/default/files/Focus-Note-A-Microcredit-Crisis-Averted-July-2013.pdf>